

状況変化が大きい患者のベッド配置における意思決定の適正化

東京女子医科大学 臨床工学部¹⁾

臨床工学科²⁾

腎臓病総合医療センター 血液浄化療法科³⁾

嶋口理愛¹⁾ 鈴木聡¹⁾ 菅原智子¹⁾ 吉田智史¹⁾ 加藤紀子¹⁾ 村上淳¹⁾ 金子岩和¹⁾

木全直樹³⁾、峰島三千男²⁾、秋葉隆³⁾

目的

流動要素の多い入院患者のベッド配置について、設備条件を踏まえて適正化する労力は少なくない。



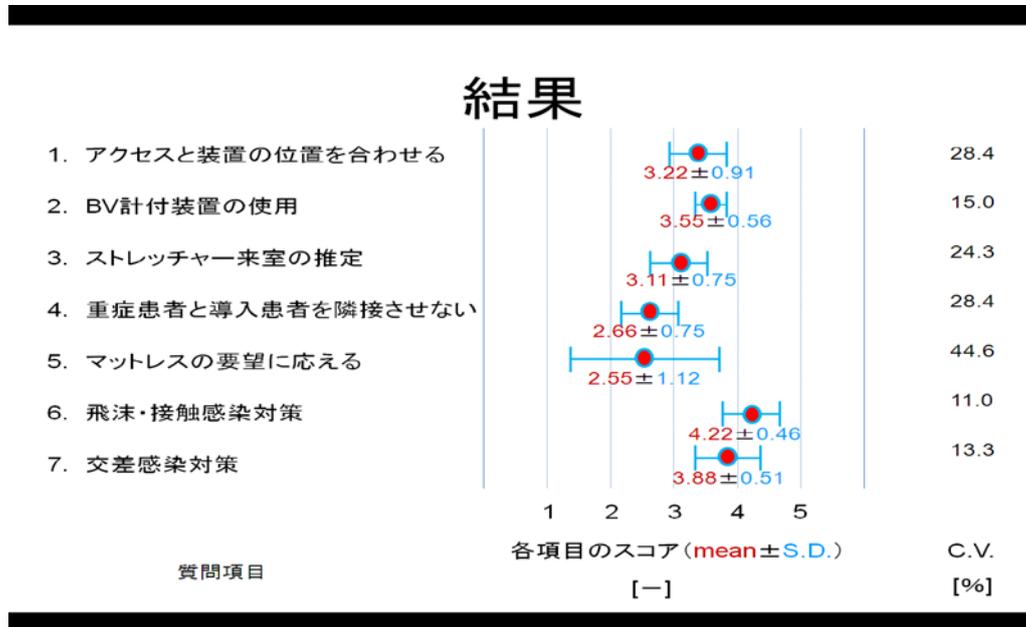
ここで示す流動要素とは、急変や緊急手術および検査などにより治療開始時間の変更や、循環動態の悪化による HD から HDF への治療法の変更、また、ストレッチャー来室患者にはスケールベッドの使用、さらにはインフルエンザや CD トキシンなどの感染が疑われる場合などには隔離または準隔離措置などといった、状態変化の激しい患者への対応を余儀なくされることを示す。

当院では前日および当日配置検討しているが、配置の判断基準はスタッフ個人でバラつきがあり、しばしば意見相違の衝突となる。本研究の目的は曖昧な判断項目に対する優先順位を明確化するための考え方を提案することである。

方法

配置を行っている看護師7名に対し、あらかじめ配置のために考慮する項目についてインタビュー調査した。各項目に対し、平均と標準偏差、変動係数を求め、平均スコアを基本とし、バラつきが大きく平均値の近い項目における順位付けの手法についても検討しました。

結果



「感染症患者（飛沫・接触）の分離」については、 4.22 ± 0.46 (mean ± S.D.) と最も重要と判断された。また、バラつきの大きな項目として、「マットレス種類の要望」 2.55 ± 1.12 が挙げられた。重要度の低い項目ほどバラつきが大きい傾向が認められた。

また、平均スコアとバラつきに大差無い項目に関しては影響度、または変動係数に着目し、順位付けした。

- 高 ↑
- ① 6. 感染症患者（飛沫・接触）であること
 - ② 7. 感染症患者（体液などによる交差感染源保有）であること
 - ③ 2. 指示が無くても循環動態不安定や溢水の患者はBV計付装置にしなければならないこと
 - ④ 1. アクセスの位置（右or左）と装置の位置は合わせなければならないこと
 - ⑤ 3. ストレッチャー以外での来室情報であってもストレッチャー来室の可能性に配慮しなければならないこと
 - ⑥ 4. 重症患者と導入患者は隣接させてはならないこと
 - ⑦ 5. 患者からマットレスの要望がある場合は応じなければならないこと
- 低 ↓

この結果を簡単に分類すると、設備面、心理面、感染対策面に大別することができ、それらは感染、設備、心理という順に重要と判断されているようだった。

考察

優先順位の高い項目は明確に指示がだされたものやルール化された項目であること、また優先順位の低いものは個人の判断によるバラツキがあることがわかった。優先順位を大別すると感染対策が最も高く、次いで設備、患者への心理となった。

迷いの要素を顕在化し、判断プロセスを手順化することは、個人判断におけるバラツキの低減や作業時間の短縮が期待できる。